

はじめに

2017 年 2 月の第 106 回看護師国家試験の問題です。

【平成 25 年（2013 年）の国民医療費はどれか。】

1. 約 400 億円
2. 約 4,000 億円
3. 約 4 兆円
4. 約 40 兆円

もし年間 400 億円であれば、人口 1 億 2671 万人の日本で一人年間約 316 円となり、たこ焼 6 個分になります。

4000 億円→約 3,157 円 カラオケ 1 回分

2018 年のはり師きゅう師国家試験問題は 2015 年の医師国家試験問題と全く同じ医療費に関する問題が出題されました。

医療系国家試験に医療費に関する問題が頻繁に登場するのは、日本という国家にとって医療費問題はとても重要であるからです。

年間 40 兆円を超えて止まることなく上昇している医療費について、医療者側も患者側も無関心でいてはならないとの警鐘のように感じざるを得ない出題がなされています。

65 歳以上人口＝老年人口が 27.7%と、世界最高、いや地球の歴史が始まって以来の高齢化率の日本にとって、【医療とその費用】問題は、今後ますます大問題になるのは必定です。

この冊子がお役にたてれば幸いです。

2018 年 11 月 編者しるす

もくじ

〈Ⅰ〉公的医療保険制度の仕組みと内容	3
・医療保険制度と自己負担	4
・自己負担の仕組み	5
・保険でカバーできる診療範囲	6
・重くのしかかる自己負担	8
・主な先進医療	9
・医療費が高額になった時	10
・通院にも使える限度額認定証	12
・高額療養費の盲点	13
・DPC(入院費包括払い制度)	14
・公的医療保険が使えない診療行為	15
・病気やケガで仕事を休んだとき	16
・出産・死亡等には一定額の支給も	17
・医療費控除	18
〈Ⅱ〉がんの再発率と5年生存率	19
・がん再発率	20
・早期のがんは治る時代です	22
・肺がんの5年生存率	23
・胃がんの5年生存率	24
・大腸がんの5年生存率	25
・子宮頸がんの5年生存率	26
・子宮体がんの5年生存率	27
・乳がんの5年生存率	28
・肝がんの5年生存率	29
・膵臓がんの5年生存率	30
・食道がんの5年生存率	30
〈Ⅲ〉主な傷病別医療費	31
・肺がん	32
・胃がん	33
・大腸がん	34
・肝がん	35
・乳がん	36
・子宮がん	37
・卵巣がん	38
・膵臓がん	39
・心疾患	40
・脳血管疾患	41
・子宮筋腫	42
・胃・十二指腸潰瘍	43
・糖尿病	44
・白内障	45
・腎臓がん(通院治療)	46
・骨折	47
・妊娠中絶	48
・気になる差額ベッド料	49
・入院時食事代の見直し(値上げ)	51



がんの再発率

《いったん治っても・・・》

がんの再発

組織的に確認されたがんが治療によって臨床的に消失し、一定期間を経過した後に、同部位または近辺に再び同じ組織型のがんが発生すること。ただし、がんの再燃(ホルモン療法等で体に残っているものの休眠状態にあったがんが、再び活発に増殖に転じること)や多発がんは除外する。厳密には治療によって根絶されず耐え抜いたがん細胞が時間を経て成長し、臨床的に発見された場合が再発である。

●肺がん

・再発率（非小細胞がん・根治手術可）

	(1年)	(3年)	(5年)
I A 期	1%	4%	10%
II A 期	3%	12%	16%

■ II A 期術後 3 年以内の再発率



※肺がんは組織の種類によって、非小細胞がん（腺がん、扁平上皮がん、大細胞がん）と小細胞がんに区分される。小細胞がんは進行が早く診断時に約 10%で脳転移が見られる。手術適応はほとんどない。また、ホルモン産生腫瘍としても知られていて、ACTH（副腎皮質刺激ホルモン）などを産生するため、高血圧が見られることがある。

●胃がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
I A 期	1%	3%	7%
II 期	3%	16%	19%

■ II 期術後 3 年以内の再発率



●子宮頸がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
I 期	0%	3%	11%
II 期	5%	11%	21%

■ II 期術後 3 年以内の再発率

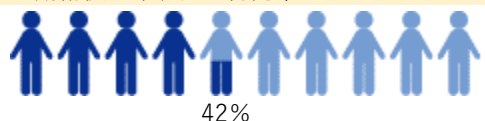


●食道がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
I 期	5%	4%	21%
II 期	15%	42%	54%

■ II 期術後 3 年以内の再発率



© 谷 康平／社会医学環境衛生研究所



膵臓がん

《難治がんの代表、予後も厳しい数字》

Stage I、II ———— 切除可能
 Stage III ———— 切除不能な局所進行がん
 Stage IV ———— 遠隔転移あり

確定診断時、切除適応のない症例が少なくない

● 5年生存率

Stage I ———— 46%

切除症例 ———— 5~26%

(全体の35~46%)

切除不能 ———— ほぼ0%

● 50%生存期間

放射線化学療法 ———— 8~11か月

全身化学療法 ———— 4~9か月

© 谷 康平／社会医学環境衛生研究所



食道がん

《早期では8割に及ぶ3年生存率》

● 切除後3年生存率

0期、I期 ———— 80%

II期 ———— 50%

III期 ———— 30%

IV期 ———— 20%以下

● 全症例

1年生存率 ———— 75.8%

2年生存率 ———— 60.6%

3年生存率 ———— 44.0%

5年生存率 ———— 36.1%

10年生存率 ———— 25.5%

© 谷 康平／社会医学環境衛生研究所

腎臓がん

概要

腎臓は尿を作る腎実質と尿を集める腎盂からできています。腎臓がんは腎実質にできる腎細胞がんのことで、50 歳代から 70 歳代にかけて発症しやすいがんです。患者数は女性に比べて男性が 3 倍ほどとなっています。ある程度の大きさにならないと自覚症状もないので、早期発見が難しくなっています。

検査・治療

血尿、腹部のしこり、腹部の痛みが典型的な症状です。CT や MRI などでも早期に発見されることも多く、早期の場合は高い生存率も期待できます。がんの大きさによって部分切除か腎臓全体を摘出するかを選択します。ただし、見つかった時点ですでに骨や肺に転移していることも多く、術後、分子標的薬(商品名・スーテント)による化学療法を行います。従来、転移のある腎臓がんには有効な治療法がほとんどなかったのですが、一定の延命効果が見られ、今後、さらに期待が寄せられています。ただし、その「価格」が大きな問題にもなっています。

具体例

59 歳男性。体重減少が多少、気にはなっていたものの、他にこれといった症状もなく、放置。突然、腰部の痛みがあり、受診。検査の結果、腎臓がんと診断され、腎臓摘出術を受け、退院。転移の可能性もあるため、分子標的薬(スーテント)による治療を開始。

標準的な医療費(患者本人の自己負担分のみ)

計 6～25 万円

(これ以外にも、差額ベッド料、寝具料、その他雑費等も必要になることがあります。)

医療費明細(毎月)

・薬剤費(ステート、1日4錠服用)

投与は4週間(28 日間)服用し、2週間(14 日間)休薬をワンサイクルとして、効果のある限り続けます。

●28 日間服用した月

・1 日の薬剤費

7,482.4 円×4錠⇒1日の薬代が約3万円にも
その他の医療費も含め、医療費合計 87 万円
として算出

●高額療養費適用

25 万 2,880 円 (標準報酬月額 83 万円以上)

17 万 520 円 (標準報酬月額 53～79 万円)

8 万 6,130 円 (標準報酬月額 28～50 万円)

5 万 7,600 円 (標準報酬月額 26 万円以下)

なお、住民税非課税の人の自己負担限度額は月額 3 万 5,400 円。

(4 カ月目以降は多数該当により、負担額は変わります。)